

「あまなつ」の収穫

いよいよ、来週からスーパーボランティアの後藤さんと、1年生教室南の「あまなつ」を収穫して、全校のみなさんに、配りたいと考えています。

「あまなつ」に関わる物語が、今から7年前の平成28年2月26日（金）付けの「ほづみっ子」に掲載されていたので、再掲させていただきます。



☆ 1000個の「あまなつ」物語 ～あまなつ君のしあわせ～

1ねんせいのきょうしつの前に、1本のあまなつみかんの木があります。その木は「あまなつ君」とよばれていました。あまなつ君は、あついなつも、さむいふゆも、まい日1年生と2年生のべんきょうのようすをみまもってきました。そのすがたをみていたあまなつ君は「ぼくもみんなといっしょにべんきょうしたいなあ。」と思うようになりました。そして、なん年もなん年もそう思っていました。あまなつ君は、にんげんになることはできませんでした。

「にんげんにはなれないけど、ぼくの実をたべてもらって、にんげんをよろこばせてあげることはできるかもしれない。」そう思ったあまなつ君は、じめんからいっばいえいようをすって、たいようのひかりをいっばいあびました。するとあまなつ君のからだはどんどん大きくなりました。なん年もたってあまなつ君は、りっぱなみきをもつおとなになりました。でもなぜか、思うようにたくさんの実がなりません。

「よし、ほづみ小の子どもたちから“げんき”というえいようをもらおう。」とあまなつ君は思いました。子どもたちのまい日のげんきなあいさつやがっしょう、いっしょうけんめいべんきょうするすがた、グラウンドで思い切りあそぶようすを見ることで、それをあまなつ君はえいようにかえていきました。

するとどうでしょう。すこしずつたくさんの実がなるようになりました。「よし、もっとげんきのえいようをもらって、ほづみ小のおともだちぜんいんに、ぼくのおいしいあまなつをたべてもらおう。」とめあてをもったあまなつ君の実は、まいとしふえていき、なんとういうことでしょう、とうとうことし1000この実をつけたのでした。あまなつ君からのあまくてすっぱいプレゼントをもらったほづみ小のおともだちは、みんなとびきりのえがおになりました。そして、それを見たあまなつ君はもっとしあわせになりました。